【エントリー情報】
自治体名：
学校名（自治体でエントリーされる場合は記載不要です）：久喜市立菖蒲中学校
ご記入者：秀嶋矩子

【設問】
1 貴自治体・貴校で目指している目標（ビジョン）・目標に至った背景・想いを教えてください。（1,500 文字以内）※可能な限り自治体や学校全体の目標をご記入ください。

学校教育目標　**志高く、未来を切り拓く生徒**
〇自ら学ぶ　〇心豊かな生徒　〇健やかな生徒

本校は令和４年度に菖蒲南中学校、旧菖蒲中学校と統合し２年目を迎える菖蒲地区唯一の中学校です。小中一貫教育の観点を踏まえ、「理想を現実しようとする高い志を立てること」「自分の人生、ふるさと菖蒲の未来、予測不可能な社会を力強く切り拓く人材を育てたい」という願いから、「志高く、未来を切り拓く生徒〇自ら学ぶ　〇心豊かな生徒　〇健やかな生徒」としています。
そして、目指す生徒像を、〇心身ともに健康で、常に生徒とともに在る教師、〇家庭や地域との連携に務める教師、として創意ある教育活動に取り組んでいます。

私はこれまで 11 年久喜市の教職員として研鑽してきました。令和５年度より久喜市立菖蒲中学校に異動し、これまで培ってきた音楽科の指導実践を赴任先でも生かせればと思い、現在は有用性を生むための地ならしを行っているところです。よって、学校教育目標でもあり、埼玉県の教育復興基本計画にある基本理念の通り、「未来を拓く」生徒を育成するために異動にかかわらず埼玉県の音楽指導者として、音楽の授業でどこまで問題発見、解決能力を引き伸ばすことができるか、また子どもたちだけでなく、教職員の意識改革を果たせるのか、そして「誰が音楽を担当しても活用できること」を目指し、その挑戦の中間報告としてエントリーさせていただきました。

令和３年度埼玉県長期派遣研修として、東京藝術大学で１年間学ばせていただいた際、研修テーマを「小・中連携を活性化する音楽教育―教材開発と指導法の工夫を通して―」と設定しました。
久喜市の音楽主任を対象とした小中学校に協力を仰ぎ、実態の把握を行うと、市で 100%小中一貫教育を設置していても、いまだ４割の学校が「連携」になりきれていないと感じる現状が判明しました。

表１　久喜市内（音楽主任）質問調査紙より

●あなたの地域では、教科間で「小中連携」が図られていますか？	
図られている	23.1%
やや図られている	34.6%
やや図られていない	23.1%
図られていない	19.2%

表２

●あなたの地域では、教科間で「小中一貫」が図られていますか？	
図られている	7.7%
やや図られている	34.6%
やや図られていない	38.5%
図られていない	19.2%

これらの背景には、音楽科の教員が１校に１人という音楽科特有の「共有しづらい環境」や、音楽担当者が毎年代わり、学習の定着が図りづらいことなどが挙げられました。そこで、学習指導要領を念頭に置いた**「誰が音楽を担当しても活用できること」**を目指しました。ICTを生かした授業デザイン、特にミライシードを活用した授業実践では資料提供した先生方にも好評を得ることができました。特に【すぐ使える教材】では、そのままデータを引用し添付することで、端末機器があればどの環境下でも「同じ学習」を実現可能としました。何より誰もが簡単に扱える資料データはコロナ禍においてもすぐに実践することができました。それを扱ううち、教職員たち自らも提供した教材をアレンジするようになり、これまで「音楽の授業」に苦手意識のあった方も意識に変化が見られるようになりました。

　その背景には、簡単に扱うことのできる《ミライシード》が意識改革のキーになったのです。

2 目標（ビジョン）に向けた具体的な個人のお取り組み・学校全体でのお取り組み、学校の枠を超えて市や他校へ広がったお取り組みや、その中で発生した課題や苦労を教えてください。（1,500 文字以内）

◆小中連携と「誰もができる音楽科」への挑戦◆

〇研究の内容と方法

（１）音楽科（担当）間の情報の共有

・市内音楽部会へ情報共有

・『音楽教育の玉手箱（交流会)』の設立

（２）教材研究や指導法の工夫

・「見方・考え方」を育む授業デザインの提案

・ICT 教材、アプリの活用提案（担任）

・協調学習の実践提案

・身体を動かすなどの常時活動の提案（担任）

・小中連携「共通する楽曲」の指導法提案

・教科横断的な実践提案（国語：伝記）

・（教員向け）リコーダー基礎講座　動画作成

・総合的な学習の時間を通した音楽実践

・空間構成や実践記録の工夫

（３）地域人材活用

・市内地域人材募集の呼びかけ

・地域人材の動画教材の作成

〇「見える音楽」への挑戦

まず児童生徒の活動を「可視化」することを考えました。

互いが見て理解し、聴いて実感し、体験して感動を促すことで深い学びへとつなげることが大切であり、思考、判断、表現する活動を「見える」ようにするためのツールとして、ICT 教材を活用する挑戦を始めました。

久喜市は全国を代表する ICT 環境が整った市であり、1 人 1 台学習端末機器が配付され、そのほとんどが Google Chrome を活用しています。そこで鑑賞教育をより充実させるために「比較鑑賞」に重点を置いた実践をしようと考え、注目したのが久喜市とベネッセコーポレーションが提携した「ミライシード」オクリンクのスライド（以下、スライド）の活用です。

このスライドは、児童生徒でも簡単にデータの入れ替えや追加ができ、学んだ楽曲から気になる楽器やパートなどを取り上げて示したり、動画配信サイトで検索した楽曲の URL や

QR コードを貼り付けて紹介したり、写真などを貼り付けることなどができます。(「Google スライド」や「ロイロノート」と同様の機能）久喜市の環境を生かし、スライドを作成する活動を授業に取り入れることで児童生徒が“なぜ”伝えたいのかを、より明確化できると考えました。

一方、課題としては、以下のように挙げられます。

・引き続き音楽科のネットワークをさらに広げること。

・実践事例を多く集めること。

・事例を知る機会（研修の機会）を増やせるよう、周知の仕方を工夫すること。

3(3-1)ICT を活用することで、先生のご指導や働き方、児童・生徒の学び方や学習への態度、学習成果などにどのような変化があったか、またこれらの変化をどのように評価されているか教えてください。(2,000 文字以内)

◆「見える音楽」具現化への実践◆

スライドを作成するときの約束事は、①「授業で学んだことを生かす」こと、②ネット上では情報量が多いため、授業（教科書）や教師が提示した課題や見どころを基本とすること、の２つです。紹介するためには自身が“理解”できていなければならず、児童生徒が「何」に注目し、どのように感じてまとめるのか、個々の意図が見える部分になります。

〇実践１　小学校　第５学年

「私の気になる楽器」紹介スライド（鑑賞）

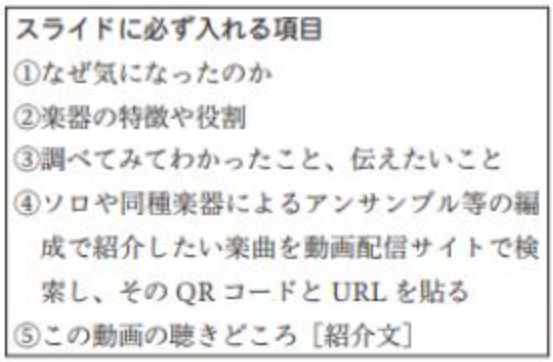
【ねらい】　『祝典序曲』への導入としてオーケストラや楽器に興味をもち、その特徴を知る。

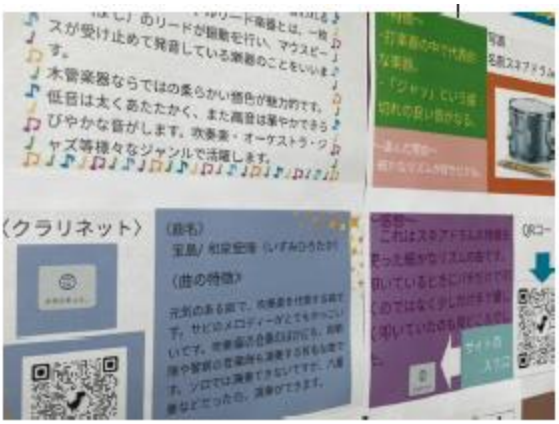
【実践の紹介】

１．オーケストラはどのような楽器があるかを知り、ムーブノート（ミライシードの中のソフト）で気になる楽器に目印をつける。

２．目印をつけた楽器の分類を知る。目印をつけた楽器の分類のほかに、どんな分類があるのか、それぞれの音色を聴き、特徴を知る。（ミライシードを操作することで音色を聴くことができる。）

３．自分が特に気になった楽器を調べ、スライドを作成し、発表する。





【スライドの作成の効果】

クラスの友達が紹介する「おすすめの楽曲」を比較鑑賞することで、同種楽器でも曲の雰囲気によって音（奏法）が違うことや、自身がどんな楽器や演奏（奏法）が好きか、自己発見することができた。

【評価方法】

スライドより「思考・判断・表現」、活動の様子より「主体的に学習に取り組む態度」

〇実践２　中学校　第２学年

「オペラと歌舞伎」紹介スライド（鑑賞）

【ねらい】 日本の伝統芸能（歌舞伎）と西洋音楽（オペラ）を比較し、それぞれのよさを共有する。

【実践の紹介】

１．授業で学んだことをもとに、日本と西洋の相違点や共通点を確認する。（例えば、長唄とソプラノの発声の違いなどの「歌」に関すること）

２．違いや共通点の中から、自分が特に気になった内容を調べ、スライドを作成し、発表する。

スライドに必ず入れる項目

①「ここがすごい〇〇」（特徴や役割について）

②調べてみてわかったこと、伝えたいこと

③自己が紹介したいテーマで、特に比較して紹介したい楽曲を動画配信サイトで検索し、その QR コードと URL を貼る

④この動画の聴きどころ［紹介文］

【スライド作成の効果】

歌舞伎とオペラを比較鑑賞してそれぞれのよさを共有することで、自分なりに感じ取って味わうことができた。さらにほかの舞台芸術に発展した生徒もいた。

【評価方法】

スライドより「思考・判断・表現」、活動の様子より「主体的に学習に取り組む態度」

〇研究の成果

（1）情報の共有（音楽の指導者をつなぐ）

「連携」に必要なこととして「小・中で子どもたちが何を身につけているのかを把握する」79.1%が挙げられました。そこで、市内外で音楽を指導する者が情報交換でき、研修できる場として『音楽教育の玉手箱』を立ち上げた。市内で 21 名、市外で 11 名、専用の classroom で＜交流、研鑽、発信＞を目的に、これまで 3 回のオンライン交流会を実施。そのうち 1 回はゲストを招聘して実技の悩み相談会を開きました。

その他、Google ドライブを活用してメンバー間で教材などのデータを自由に取り出し可能としました。特に【すぐ使える教材】では、そのままデータを引用し添付することで、端末機器があればどの環境下でも「同じ学習」を実現可能としました。また、一教材でも多様な指導法を共有できることから、指導者自身の教材研究への意欲が向上しました。

〇検証授業（ICT 教材、学びの接続）

時代の波を受け「ICT を活用した勉強をしなければならない」に対し、かなり必要 65.4%、多少する必要がある 34.6%と「必要」と感じる教員が 100%でした。そこで、ICT 教材（ミライシードのスライド）などを提案したところ、配付データをアレンジして活用する教員が増え、ICT 機器の特性を生かした授業展開から「楽しんで音楽づくりができた」と実施校すべてから好評を得ることができました。

ICT 活用には「提案者だからできる教材」から「誰が担当しても活用できる教材」になることが証明 されました。またイヤホンの有用性についての検証では事前に「音源データ」を配付、「自分のペースで音楽を味わう活動」を実施しました。事後調査ではイヤホンの「有用性を感じる」が 9 割を超え、イヤホンを用いた授業の有用性が証明されました。

さらに『授業デザイン』の提案では、「楽曲分析」を生かして一つの題材設定の中に【個→集団→個】の一連の流れを作る協調学習を実践しました。

授業の最後の振り返りとする「スライド紹介文」では、「仲間の意見や集めた情報を組み合わせて自分なりの考えをまとめられた」と答える生徒が 80.2%から 88.9%に上昇し、小学校からの活動の慣れが「連携」として結果につながりました。

4 お取り組みの中でのミライシードの活用画面・活用機能お取り組みの中でミライシードが役立った場面・活用頂いたアプリ/機能を教えてください。
※活用エピソードが複数ございましたら、文字数制限内でご記入ください。1 つのエピソードに絞る必要はございません。（2,000 文字以内）

◆ 実践を振り返って◆
見て理解・聴いて実感・体験して感動を促すことで、決められた授業の枠から飛び出して、休み時間や自宅でも楽しむ姿が見られるようになった。他者のスライドを見ることで、新たな視点の発見を得たり、スライドなどにまとめた情報や紹介文 を見て、 QR コードを読み取り聴くことで、「あ、本当だ！」と共感の声が増えたりする様子が見られました。

現在、休み時間には、Chromebook を片手に QR コードで鑑賞を楽しむ姿、音楽に合わせて体をゆらし、仲間と感想を交換し楽しむ姿が校内のあちこちで見られるようになりました。
研修「誰が担当しても」は、ICT 教材を取り入れた授業によって格段に向上したと感じています。
ICT を活用することは、教材に迫るためのツールとして、全体で音楽を学ぶことから個々の楽しみへ、そしてデータ配信や入力など、個別最適に合わせた指導が可能になることがわかりました。

今回紹介した実践の成果としては、スライドを作成することで、音楽の可視化・紹介するためによりじっくりと楽曲を聴くようになり、それをわかりやすく示すために自ら工夫しようとする姿や、それらの経験を生かして仲間とともに味わって聴く活動につながったことです。
興味関心が高まったり、発表に対して児童が主体的に質問する、といった意欲的な姿も見られました。
また、発表スキルが身につくことや、音楽室に作品スライドを掲示したことによって、友達の紹介する楽曲を QR コードで読み取り、休み時間に鑑賞して音にふれる機会を増やしている児童生徒がいたりと、音楽の授業における枠を越えた様々な成果があったと考えています。
そして研修を通して、市内全体で御協力いただけたことに感謝したいです。成果の背景には継続された学習の成果が大きく、交流の中で「同じ悩み」を誰もが抱いていることを知ることができたことも大きいです。
「共有できる環境」は、指導者の悩みを解き、指導の意識や意欲を高め「連携を活性化する」大切な一歩につながると確信しています。子どもたちに還元できる様々なつながりを大切に、

今後も発信し続けていきたいと思います。